

令和7年度 学校評価書（共通） 前期

校名 宇和島市立番城小学校

1 自己評価書

教育目標	自他を大切に、共に考え解決していく児童を育てる					
基本方針	「がんばれ」～自分に、そして友達に送るエール～					
本年度重点目標	1 社会総がかりで取り組む教育の推進 2 確かな学力を育てる教育の推進 3 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 4 安全・安心な教育環境の整備 5 互いの人権を尊重する教育の推進と児童の健全育成					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析結果を基に、「身に付けさせたい力（学習の目標）」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	後期のみ	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業モデル「N見方・考え方を変える」を視点に授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B	
			ねらいを明確にした分かる授業を行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B	
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク等)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働により、授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする児童生徒の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B	
	(成果と課題) ・学力向上推進主任がリーダーシップを発揮し、全教職員の共通理解の下、取組を進めることができた。特に家庭学習において、家庭、学校が協力し合って働き掛け、児童の頑張りが見られている。 ・読書活動、地域学習については、学校での取組はされていたが、成果が十分ではなかった。効果的なものにしていく必要がある。					
	(改善策等) ・読書活動については、保護者への啓発を行いつつ、学校でのきっかけづくりを進めていく必要がある。学級単位で定期的に図書室に行って本を借りる機会を設けるなど、学年に応じた取組を進めていきたい。 ・地域学習については、2学期以降、成果を保護者に周知しつつ取組を充実させていく必要がある。					
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B
		②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B
不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。				・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B	
いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速且つ適切な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。				・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B	
③		関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B	
④		自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート		
(成果と課題) ・生徒指導上の諸問題に対して教職員による組織的な対応ができ、児童からの評価も高かった。 ・悩みを抱えている児童もあり、保護者も相談するケースがある。普段目立たない児童にも目を向ける必要がある。						
(改善策等) ・教育相談(チャンス相談)を進めていくことで、児童の悩みを早い段階でキャッチできるようにしていきたい。 ・挨拶がきちんとできることは、他のいろいろな面の課題解決につながっていくと思われる。学校・家庭・地域が協力して元気な挨拶ができる児童の育成に努めていきたい。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指し、校内で設定した業務改善施策を基に、組織的な働き方改革に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B		
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。（枠を移動しました。）	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	B	B
（成果と課題） ・教職員の協力体制や相互のコミュニケーションが充実しており、働きやすい環境づくりができてきている。特に、若年教職員へのサポートを組織的に行うことができた。 ・繁忙期はどうしても超過傾向が強いが、80時間超過とならないよう計画的に業務に当たろうとする意識は高まってきている。。 （改善策等） ・教職員一人一人の意識改革については啓発を続けるとともに、事務作業の効率化のためのICT活用のミニ研修を進めていく。 ・チーム担任制・教科担任制には、業務改善につながるよさもある。取組を検証しつつ、よさを生かしていくようにしたい。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた（校内体制）。	・教師アンケート	B	B
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化（地域・保護者へ）を図り、熟議等の結果を基に、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	B	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	B	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に行い、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	B
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	B	
（成果と課題） ・ホームページを中心として、保護者・地域への情報発信を充実させることができた。 ・地域学校協働活動推進員の協力の下、授業に地域ボランティアが協力することが増えてきている。しかし、学年や教科によってばらつきがあり、教職員と地域学校協働活動推進員とのミーティングの機会を増やしていく必要がある。 （改善策等） ・地域学校協働活動推進員の仕事や学校運営協議会の役割についての教職員への研修や保護者への啓発活動を充実させる。 ・情報発信に紙媒体を活用しているものが多いが、可能なものはデジタル配信することで、保護者に情報がタイムリーに届くようにしていきたい。						

＜評価基準＞ A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満